

私は 2009 年から 2011 年の 2 年間、看護師隊員としてケツアルテナンゴ県のカンテル市に派遣されました。私にとって学生の頃からの夢であった国際協力に携わる第一歩となったのがグアテマラの隊員経験です。アンティグアでの語学訓練を終えて、任地に着いたときのことは今でもよく覚えており、未舗装のでこぼこ道に揺られたあと車から降りたらとても寒かったのと、家がポツポツあるだけの田舎風景に驚き不安を感じたものです。

そして現在。村の道はきれいに舗装され、今では車が揺れることはありません。村にはスーパーができて、お店も増え便利になりました。私が働いていたヘルスポストは建て直されて、先週立派になった建物で開院式が行われたところです。

私はと言うと隊員を終えて帰国後、JICA ジュニア専門員になり国際協力の道に進みつつ、現在はまたグアテマラに戻って医学系の大学で学んでいます。グアテマラでは経済発展とともに人々の暮らしは少しずつよい方向へ変化していますが、国家食糧安全保障栄養審議会（CONASAN）によると 5 歳未満児の 50% 近くは慢性栄養不良であり、この 20 年間で 8.7% しか減少していないこと、一方で成人における肥満とそれに伴う心疾患や糖尿病の増加という新たな問題に直面しており、国内における予防教育が喫緊の課題となっています。また、母子保健分野においては施設分娩の急増により国立医療施設の設備もスタッフも足りないことから妊産婦 2 人以上で 1 つのベッドを共有したり、陣痛中に放置され産婦が一人で出産したり、そして経済的に裕福な人々が利用する私立病院では不要な帝王切開が行われているケースが目立ちます。

私の目で見えてきたグアテマラはこの 10 年間で大きな発展を遂げましたが、すべての人々の健康を守るためにはまだ改善を要するでしょう。



